

拝見つらむ少き話にあらむから
以無碍の心と申すわが心におもひ
先生の内立は存にお作名に未だ
りし絵を描きよしと恥し
才也
すた。このたびは勝手にお願ひを
致し。止運惑とおひたしたく
おわが申し上げます
先生には折柄、秋年号やら更に
大きにお仕るしとお拵ら申す
無理とおき、とけいせずして
肩難う様。幸に
おかげ様で本日旅立つことがお
束末也
ロータには息子が六年前、彫塑
の勉強をフランクニにのぞき、あり
ます。バチカンのサン・ピエトロ寺院
内のレリーフを手傳うとのこと。
お水やこれや色々と言ひ言つて
くちつりやあ。パリには娘夫婦が
おりありて、家内は孫の顔を見
のがす。あのみようや。
十二日に帰つて参ります。
先の前はは挨拶がらむは報告に
伺はく。解してあります。
先折柄からお祈りも伺はせし
このまゝお装束すことになつて
まことに申すわがありませぬ
取りあはすお書面にく
以自身自愛のほしとす

一九七五年十一月十日

御正伸

舟橋聖一先生

又 十一月十日 文章道三三三
御正伸